第11号
昭和52年3月20日

大阪産業大学校友会報
Osaka Industrial University

発行所　大阪産業大学校友会
（大阪産業大学内）
大東市中垣内3の1の1　〒574
電話(0720)71-1251(内線381)
発行責任者　大阪産業大学校友会
石川信男
印刷所　(株)藤井印刷店
大阪市城東区関目3丁目7-17
電話（06)932－0351(代)

卒業を祝して

陽春の三月、新たに大阪産業大学、短期大学を巣立ち、実社会の荒波に船出される皆様の前途を祝して、心からおめでとうを申し上げます。

皆様はこれまでにそれぞれの学部、学科で勉学され、大学生活で得た豊かな人間性、これらのことは社会が多様化しようとも永遠に確立したものとして皆様の心の中に生きつづける宝であると思います。

今日の不況経済、また戦後最大の困難に直面しているだけに新卒業生皆様の今後の道は険しく、きびしいものがあると思います。

しかし皆様は発展途上の大阪産業大学の卒業生として確立した理念をもち、その目標に邁進し、どのような困難や障壁に遭遇しても、皆様はそれを乗り切って更に発展拡充を遂行し、社会人という尊厳な使命を果さなければならないと思います。

大阪産業大学卒業の多勢の先輩は後輩のため、母校の発展のため日夜を徹して努力しており、後輩は先輩を追抜くために努力する。

このような一つ一つのサイクルが大阪産業大学の堂堂たる歴史を作るものであると思います。

皆様は今日において先輩になったわけである。これからは大阪産業大学校友としての誇りをもち社会に対応していかなければならない。

これからの時代においては、その人が社会のためになにが出来るかにおいてその人の評価が決定される可能性があると思われる。

今後あらゆる分野の職業において現場を通じ理論的に展望できる人材が必要となるであろう。

皆様は校友会名簿によって先輩と連絡を密にしお互いに校友会発展のために頑張ろうではありませんか。

皆様のご健勝を心からお祈り申し上げます。

新執行部が発足す

会長に石川信男氏

副会長も7名、新に選出す

さる、十一月二日新阪急ホテルにおいて、盛大に総会が開催されました。

五十一年度総会の重要な議題として、会則改正が挙げられ、大幅な会則改正が決議された。（会則改正内容については別記します）

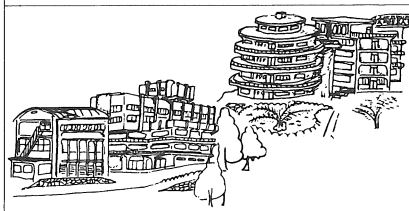
総会以後、新会則にのっとり、各機関の会議により、協議した結果、新執行部が発足する運びとなった。

新会長に石川信男氏（交通短大八期卒）がきまり、引き続き、副会長には、若手の産大卒業生も含めて、七名が選出された。つづき、常任幹事・幹事・代議員の新メンバーが誕生した。

新執行部のきまったところで、簡単に校友会のかかえる課題を挙げてみます。

ここ数年、校友会の発展は著しく、それに伴ない、規模の拡大・会員数の激増予算の巨大化・会務事務の複雑増加等、多くの現象を示しております。それに伴ない、様々な問題が発生するに至っております。このことは、反面うれしい悲鳴でもあり、校友会運営に、一つの大きな曲り角へ、差し掛かっていると考えられます。この局面を乗り越るとき、校友会の新しい飛躍発展が約束されると思われます。この重要な一大飛躍の時期に、新執行部は、誠に相応しい人様であります。又、会員諸氏も石川会長を中心に大きく団結し、大阪産業大学の発展と拡大充実を実現に邁進しよう。

最後に、前会長堀川孝氏におきましては、六年間の長期間、会長激務を務められ、大阪産業大学校友会としての確固な基礎を築かれました。これも一重に、個人的人望によるところが大きく、会員一同、心より感謝の意を表すしだいです。



新役員紹介

会長　石川信男（8期）
副会長　林大行（2期）
〃　伊藤孝義（2期）
〃　杉岡重武（3期）
〃　真田卓克（12期産1期）
〃　谷口義清（15期産1期）
〃　梅本昌則（15期）
〃　近藤茂（産4期）

副会長　林　大行

副会長　伊藤　孝義

副会長　杉岡　重武

副会長　真田　卓克

副会長　谷口　義清

副会長　梅本　昌則

副会長　近藤　茂

会計監事　表佐吉（3期）
梅田浩利（8期）
相談役　堀川孝（1期）

★常任幹事
浅田弘太郎（10期）
作田芳隆（12期）
東芝立（13期）
高浪洋一（14期）
光岡明弘（15期）
菱田英男（15期）
馬込正勝（産2期）
植村義夫（産5期）

★幹事
辻治雄（1期）
天川重利（2期）
植田敏夫（〃）
岡本忠温（9期）
森本克彦（10期）
福西輝雄（11期）
江本和史（13期）
橋本修洋（〃）
清水正博（産3期）

★代議員
田中鉄雄（4期）
村田陽行（5期）
村田満喜雄（12期）
正岡俊彦（〃）
柏葉呈（〃）
橋本武実（1期）
千原（〃）

池田義隆（14期）
芦田正之（15期）
南木清俊郎（産1期）
御旅屋正勝（〃）
市田義臣（〃）
橋本国俊（〃）
石丸修（〃）
青木勝秀（〃）
美内照男（産2期）
山下憲昭（〃）
大平和進（産3期）
伸上二（〃）
青山英孝（〃）
田中武雄（〃）
荒木健治（産4期）
花野元哉（〃）
金丸勝春（〃）
谷口太一（産5期）
横山泰章（産5期）
安井義文（〃）
本多清吾郎（産6期）
村越正紀（産7期）
太田晴行（〃）
加門和彦（産8期）
西博行（〃）

チャイム

社会人になるあなたに、電話料金もあがったことだし、ここで、電話の上手なかけ方、受け方のポイントを紹介しましょう。

☆……かけ方……☆

☆かける前には電話番号を確かめて。用件は頭の中で整理し、できれば、話す順序をメモしておくと便利です。☆鉛筆などで回さないように。ダイヤルがずれて相手につながらないことがあります。☆相手が話し中なら、いったん切ってからかけ直します。すぐ、かけ直してつながるのは一五パーセント。三分後にかければ九十パーセントはつながるという統計があります。☆相手がでたら、相手の都合を聞いてから話しましょう。姿が見えないからと行儀の悪いかっこうはやめたいもの。相手に伝わります。

☆……受け方……☆

☆電話のベルが鳴ったら、できるだけ早くです。待たせたかなと思ったら「お待たせしました」をお忘れなく。☆電話は記録性がありませんから、必ずメモを取るように。話は要領よく手短かに。もし、調べものをするなら、いったん切り、あらためてかけ直しましょう。☆電話の取りつぎはスピーディに。話の要点を伝えてから変わります。同じことを何度も相手に言わせるのは不親切です。名ざしの人が不在の時は伝言を聞くか、「戻りましたら、こちらからお電話をいたしましょうか」と尋ねます。☆電話器の感度は意外に敏感。四メートル四方の音声はバッチリ入って、相手に聞こえます。うちわ話などは、ご要心、ご要心。

☆今まで、せっかく上手に応対したのに切れぎわの「がチャン」で相手を不愉快にすることもあります。受話器は静かに置きましょう。かけた方から電話を先に切るのが、一般的ルールです。

☆電話局から、コマーシャル☆

☆ダイヤルを無理やりに戻さないで下さい。電話は、ダイヤルを回すときでなく、戻るときの合図でつながります。無理に戻すとまちがい電話、故障の原因になります。また、名刺にすりこむ電話番号は、「電話・大阪（〇六）一二三―四五六七内線八九」が理想的。電話が所属する区域をあらわす「局名（大阪など）」「市外局番」は忘れずに。よく、市外局番や市内局番を（）に入れ、小さな活字で書いたものがありますが、他の番号と同じ大きさで、はっきりと。相手が、電話をかけるたびに、老眼鏡を捜すようではお気の毒。内線番号があれば最後に入れます。あなたの名刺はどうですか。電話は、一方的で強引な一面を持っています。これをうまく使いこなせるようになれば、あなたも社会人の仲間入り。さあ若人よ、力まず、憶せず、社会へ飛び出せ。

創刊を思う

「題字は上芝弘氏」

校友会報も創刊してはや十一号を迎えました。創刊の時、題字について、現在の横書スタイルにするのに、少しもめたのを思いだす。その時、題字を書いていただいたのが上芝弘氏（本部総務課勤務）です。総会次第その他、毎年お世話になっております。

校友会支部だより

岡山支部

卒業十年目

43年・短大卒
桑名 邦雄

校友会の皆様には、益々御健勝にて御活躍のことと存じます。

私は昭和四十三年短大自動車工業科の卒業です。

現在、校友会岡山県支部に所属しております。

今度、支部長より会報の原稿を書く様に依頼され、慣れない事ながらペンを取った次第です。

私は、短大自工科を卒業して、岡山日産自動車株式会社に就職し、その年に二級整備士の免許を取得し、その一年後、検査員の免許をも取得致しました。日産勤務中は、これらの免許を生かし、又私自身、将来の目標、自動車整備工場の経営をも夢みて懸命に努力して参りました。しかし、当地、津山における整備業界の低迷の様子から、整備工場開業の目標を断念した訳です。しかしながら、事業に取組む意欲は消えず、五年間の整備生活に終止符を打った訳です。

現在、当初の目標から一変して、〝F１〟（エフワン）という名称の鉄板焼及軽食喫茶のドライブインを開業致しました。最初の頃私も手なれた仕事でなく、度々まどい、うまく行くかどうか心配も多くありました。でも手がけた以上必ずやり通さねばという信念から頑張り通しました。店も今年で五年目を迎え、どうにか軌道に乗って来ました。私の店は、中国自動車道津山インターチェンジより二分、国道五十三号線、岡山方面の右手にあります。

校友会の皆様、当方面御越の節は、是非お立寄り下さい。なつかしい学生時代の思い出話も出来れば本当にうれしく思います。

未筆になりましたが、校友会皆々様の御健康と御多幸をお祈り致しております。

大学支部より

大学支部結成一年余経過しました。会員も発足当時四十一名でありましたが、現在では五十六名と増加し昨年末には、総会を兼ねて新会員及び三十六名の参加を得て盛大に忘年会を行いました。その席上、新会員の紹介があり、その後は歌あり、踊りありで三時間余楽しい一時を過ごしました。

今後の事業予定としましては、三月二十日実施される卒業式当日に記念品の配布と年二回発行の校友会新聞発行の準備手伝い等種々ございます。

又校友会におきましても副会長四名、幹事六名、代議員七名が支部の中から選ばれており、これら役員からの要請があればいつでも活動出来るよう準備し、校友会発展の為に頑張っております。

近況

50年・II部機械卒
平井 守
（旧姓 姓尾）

大阪府立工業高等専門学校技師として勤務するかたわらII部機械工学科を卒業し、現在も、尚精いっぱい教育実践にたずさわっております。本府立工専は五年制で、この五年間の学業の中で人間性を養い、学識等を身につけ、卒業後は企業から中堅技術者として迎えられ、大学にも劣らない教育実践を行っています。

四年間大学に行かせて下さった理解ある学校側に恩返しのつもりで担い手となり、大学で得た学識を生かし、研究・実験実習にと努力を重ね、又学生の中に溶けこんでゆき、よき立派な技術者に成長させるため、日夜努力している現在であります。

大学祭スナップより
『阪駒祭』

今年も来てください。

社会人としての自覚

50年・経営卒
有田 鋼

早いもので、私は社会人として、もう三年を迎えようとしています。若輩である私が皆様に社会人として一言というのは、少々気恥かしさを感じるのですが、あえて、先輩、後輩という立場から、私なりに感じた社会人としての自覚を少しばかり述べてみたいと思います。

私が皆さんに最初に述べたいことは、〝自分の実力に合った目標〟を持っていただきたいということです。

皆さんは社会に出れば、新たな経験や勉強で常に実力は高めていくことが出来ます。しかし、人それぞれにその実力に限りがあり、もし、その実力以上のものを出そうとすれば、自分自身を背伸びさせることとなり、その結果何もならないで終ってしまうということになります。

社会の中では、学生時代のように試験の出来が悪くても、そのプロセスが良ければ良い点数を与えられるということはありません。あくまでも、その時の結果でもって評価されます。この評価を良い方向にもっていこうとすれば、自分の実力は高められ、その上で自分の実力を知り、それに合わせた目標でもって自らを進めていかなければなりません。実力もないのに実力以上の事をしようとすれば自らを破滅する結果となり、社会の敗者になるだけのものとなってしまいます。以上私が社会の中で実感としていることをかいつまんで述べてみましたが、社会にはまだまだ色々な事があります。紙面の都合上、これら一つ一つを述べることは出来ませんが、皆さんの実際の経験に任せるとして、皆さんの今後のご活躍を心からお祈り申し上げたいと思います。

日頃感じること

46年交機卒
荒木 一雄

46年の春に卒業した私は茨城県にある財日本自動車研究所（ＪＡＲＩ）に勤めました。ＪＡＲＩとは自動車雑誌によく載っているヤタベのテストコースを持つ研究所のことです。ここでは自動車に関する研究が行なわれており、その中で私はタイヤに関する研究をしていました。その後、51年の春から大阪産業大学工学部に勤務していますが、これら通じて改めて感じたことは、人生そのものが勉強であり、勉強をするということは人生という階段を一歩一歩登っていくということでした。研究という仕事もこれと同じく目標に向かって出発するわけですが、その過程においていろいろな問題点が出てきます。これらを解析し、それを解決することにより一歩の前進があり、目標に近づいていくわけです。

このことは私が研究という仕事に従事したゆえに感じたことではなく、あらゆる社会生活においていえることと思います。ただ、目標というものは幼ない時、若い時にはある程度他人から与えられるものですが、やがて自分自身で目標設定をしなければならない時期が来ます。人間というものはえてして他人に辛く、自己に甘いものです。どんな場合も自己に対して強くなれるよう心がけていきたいものです。

卒業して今！

51年交機卒
鎌倉 道徳

入社して一年、今の職場はマツダオート大阪大東営業所です。この営業所は新しく、サービスマンの平均年齢二十二才、セールスマンの平均年齢は二十八才と大変若くて活気にあふれています。

この一年のセールス活動で一番感じる事は、対人関係の難しさです。自分が相手に何を伝えたいのか、何を知ってほしいのか、それがなかなか言葉で表現することが出来ず、相手に不安を与えたり、誤解されたり、一時、自分は、セールスマンとしてやっていけるのだろうかと悩んだ事も有りましたが、今では、それが、経験、年月が解決してくれると思い、前向きな気持で体ごと仕事にぶつかって、毎日のセールス活動で何かを体得し、それらを一つ一つつみ重ねることによって将来、何らかの形でこの経験が生かされてくると信じ焦らずに一歩一歩前進して行きたいと思っています。

大阪産業大学校友会会則

第１章　総　則

第１条　本会は大阪産業大学校友会と称する。

第２条　本会は会員相互の親交を深め智徳を増進し併せて学校法人大阪産業大学発展に貢献するを目的とする。

第３条　本部は大阪産業大学内に置き会務を事務局で処理する。

事務局は事務局長と員をもって事務処理を行う。詳細については別に定める。

支部は各都道府県毎に置く。但し必要あるとき代議員会の承認を得てこの他に置くことができる。会員少数のため支部としての構成ができないのは隣接支部に合体するものとする。

第２章　会　員

第４条　会員は次の三種とする。

一、正会員　大阪交通短期大学、大阪産業大学、大阪産業大学短期大学部の学業者、但し学校に在籍したことのあるものにして、代議員会の決議を経て正会員とすることができる。

二、準会員　大阪産業大学、同短期大学部に在学するもの。

三、特別会員　現職の教職員並びに母校学園の現職の理事、評議員、旧職員、及び幹事会で認めたもの。

第５条　会費は代議員会で決定し、詳細については別に定める。

第３章　役　員

第６条　本会に次の役員を置く。

一、会　長　１名
二、副会長　８名以内
三、常任幹事　15名以内
四、幹　事　30名以内（常任幹事を含む）
五、代議員　各期若干名
六、会計監事　２名
七、顧　問　若干名
八、参　与　若干名
九、相談役　若干名

第７条　役員は次の業務を行う。

一、会長は本会一般の事務を総括する。

二、副会長は会長を補佐し、会長に事故ある場合はその職務を代行する。

三、常任幹事は各事業を分担し、その事業の目的を達成するための業務を行う。

四、幹事は会務を処理する。

五、代議員は各卒業年度の会員の連絡を密にする。

六、会計監事は財務諸表を監査する。但し他の役員を兼務できない。

七、顧問、参与、相談役は重要事項について会長の諮問に応じて代議員会で意見をのべる事ができる。

第８条　会長、副会長は幹事会で選出する。常任幹事、幹事は代議員会において、代議員中より選出する。

第９条　代議員の選出は学内代議員の推薦により代議員会にて選出する。

第10条　会計監事は代議員会において選出する。

第11条　顧問、参与、相談役は幹事会の議を経て会長が委嘱する。

詳細については別に定める。

第12条　役員に欠員を生じた時は各機関の決議を経て会長はこれを補充することができる。

第13条　役員の任期は２カ年とする。但し再任を妨げない。

欠員補充によって就任した者の任期は前任者の残りの期間とする。

第４章　事　業

第14条　本会の目的を達成するため下記の事業を行なう。

一、会員名簿を作成、整理し随時新会員名簿を発刊する。

二、母校と会員の連絡を密にするため機関誌を発刊する。

三、その他本会の目的を達成するために必要な事業。

第15条　本会の財源は会費の他、特別の事由あるときは本会の名において徴税を尽すものとす。慶弔に関する規定は別に定める。

第５章　総　会

第16条　総会は毎年１回開催する。臨時総会は代議員会の決議により必要と認められたとき臨時にこれを開く。

第17条　総会は次の事項を決議する。

一、会則の改正。

二、会計報告。

三、会長において必要と認めた事項。

第18条　正会員より議長１名、副議長１名を選出し、議長は会議を統括し、会議の順序を定め会議を開閉し議場の秩序を保持する。副議長は議長を補佐し、事故あるとき、これを代行する。

第19条　総会は次の事項を議決する。

一、予算の実行に関する事項。

二、予算案の作成に関する事項。

三、具体的な会務の処理に関する事項。

第20条　幹事会は３分の２以上の出席をもって成立し決議は出席者の過半数をもって可決する。但し書面をもって意志を表示したものを出席者とみなす。

第21条　代議員は会長、副会長、常任幹事、幹事、支部長、代議員をもって組織する。

第22条　代議員は会長が必要ある毎にこれを召集することができる。

第23条　代議員の３分の１名以上の同意を得て代議員の請求したるときは会長はこれを召集しなければならない。

第24条　代議員は次の事項を決議する。

一、総会の決議により附託された事項。

二、会則に定められた事項。

三、予算の決定に関する事項。

四、会の目的達成のため必要なる事項。

第25条　代議員会は３分の２以上の出席をもって成立し、決議は出席者の過半数をもって可決する。但し書面をもって意志を表示したものを出席者とみなす。

第26条　代議員会の決議に関しては不服を申し立てることはできない。

第７章　幹事会

第27条　幹事会は、会長、副会長、常任幹事、幹事、支部長をもって組織する。

第28条　幹事会は会長が召集する。

第29条　幹事会は次の事項を議決する。

一、常任幹事、幹事は代議員会において選出する。

二、会則に定められた事項。

三、予算の決定に関する事項。

四、会の目的達成のため必要なる事項。

第30条　幹事会は３分の２以上の出席をもって成立し決議は出席者の過半数をもって可決する。但し書面をもって意志を表示したものを出席者とみなす。

第31条　本会の会計は会費および寄附金、その他をもってこれに充て

第32条　本会の会計年度は毎年４月１日より翌年３月31日をもって終る。

第33条　決算は毎会計年度終了後２ヶ月以内に作成しこれにつき会計監事の意見を求め、会計監事はこれを総会に報告する。

第34条　地域又は職域に支部を置く場合は、本部に報告し、代議員会の承認を得るものとする。

第35条　支部長は幹事会に出席し幹事と同等の権利を有する。

第十章　除　名

第36条　会員で本会の体面を汚し、又会員として不適当と認められるものは代議員会の決議を経て除名することができる。

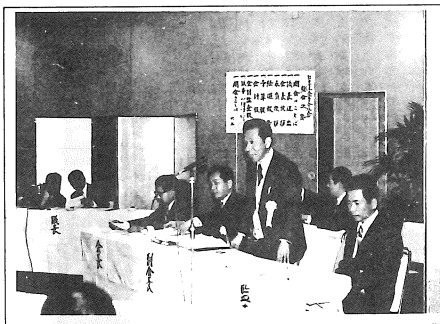
付　則

この会則は昭和45年１月１日より施行する。

（昭和48年11月25日一部改正）
（昭和49年11月２日一部改正）
（昭和51年11月２日一部改正）

傍線は改正部分

昭和51年度校友会
定期総会経過報告



会場を新阪急ホテルに移して開かれた、第七回定期総会は、場所が新郎新婦を横目にしての開式でありましたが、久し振りに本会にも女性会員の出席をみ、華やいだなかに行われました。

当日の議事並びに議案・報告は次のとおり。

○開式　午後五時
○議長選出　(正)伊藤孝義　(副)大手和昭　堀川　孝
○会長挨拶
○来賓挨拶
理事長　長藤友三郎
学　長　筆谷　稔
○経過報告
副会長　石川信男(一般)
会館建設準備は梅本氏
○会計報告　真田卓克
○会計監査報告
会計監事　梅田浩利
○予算報告
副会長　林　大行
(異議なく承認される)

議事

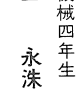
一、会則改正について
配布原案に基づき主旨説明があり、一部修正の後承認された。
一、その他、
○校友会員子弟の、特別入学上の問題もあり、現時点では実施に至っていない。
○クラブ充実のために、コーチ・監督制度の確立について
(答)大学の校外活動問題への姿勢が問われるものであり、機会を捕えて善処方を申し入れる。
○スポーツ選手の、特別入学制度の確立について
(答)公文書にて申し入れを行っている。

以上で総会を終り、懇親会に移る。

岡山県支部長光岡明弘氏の司会、副会長谷口義清氏の幹杯で始まり、参加者全員久し振りの再会に、旧交を温めあった。途中モントリオール・オリンピック大会馬術の部に、日本代表として参加された「東良弘」」氏に会長より記念品が贈られた。

反省として、多くの校友の参加を求めて会場を、大阪の中心地、新阪急ホテルに定めたが、日程の問題等のため、思うようには行かなかった。しかし今後とも試行錯誤ではありますが、方法をこうじる考えであります。皆様方にも良いお知恵なり、ご意見がございましたら、お便り下さい。

虫に喰われた服の話



交通機械四年生
金　永洙

何も知らず、夢と希望と不安のいりまじった複雑な気持ちで、やってきた大阪産業大学という服の仕立て屋。

しかし、そんな気持ちも強制勧誘という小汚ない虫に喰われて失望した一年生。

勉強だけはと、一人頑張っても環境という大きな虫に呑まれたヤケクソの二年生。

シラケ虫という虫にたかられ何もしなかった三年生。

就職前にあわてて薬をまいてもすでに遅すぎた四年生。

それでも表だけは、穴を繕い買われてゆくおれたち、虫に喰われたオンボロ服。

大きな家に買われて、穴が見えやしないかと心配するよりは、どうせなら小さい家に買われて、十分役に立ちたい。

忍耐力の重要性

51年・機械卒
政野　誠治

今年の三月で、はや社会人二年目になろうとしている。社会の厳しさは想像以上である。なかでも人間関係が最も複雑である。

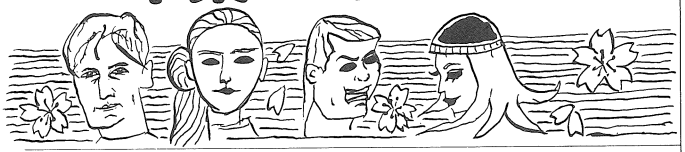
先日、学生時代の友人に会い、現在の心境を語り合ったが、彼も同じようなことを感じているようである。

「大卒のプライドは捨てなければならない。一つでもミスをやると、下請けから責められ、腹の立つことばかりだ。しかし、仕事を続けていく以上、いち／＼腹ばかり立てておれず、何とか話を合わせてやっているのだ。」と、人と人とのつき合いのむつかしさを話してくれた。今の我々には、我慢するしか方法はないのかもしれない。

私は、学生時代、体育系のクラブに所属していたが、体力は勿論のこと、忍耐力を養うのに絶好の場であったと思う。現場工事で辛いことがたびたびあるが、一年の合宿の辛さに比べれば、何のこれくらいのことはと、比較的楽に割り切れることが出来る。このような時、クラブを続けていてよかったと思うと同時に、人間は辛いことは多く体験しておくものだと痛感した。

今後、更に困難な立場に立たされるであろうし、又人間関係のみにくさにも直面する時が来るであろう。素直に聞き入れる心のゆとりと、以前体験した苦しみが大きければ大きい程、忍耐力も増し、いかなる問題にも対処出来るようになると確信している。

卒業にあたって

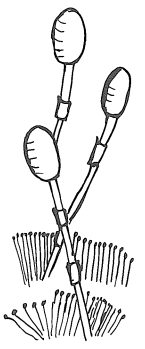


就職を前にして

土木四年生
野々垣秀之

就職を前にして思い出すことは、四年間の短かったことと、そしてこの四年間の社会環境のめまぐるしい変化です。入学した昭和四八年は、高度成長時代で、卒業する今年は、不況風が就職戦々を吹きまわっている。こんな時代に卒業なんてと思う半面、就職が決まった今は人生における一つの試練と考え、ファイトが湧いてくる。私は幸運にも二社共に合格して、結局のところ会社内での勉学に対して、前向きな点が気に入り、資本金の小さな会社を選んだ。今後の社会は、より労働力が集約化され、実力のある人間が社会に生き残ってゆけると思う。これは大学生活にもいえる事で、入学して、ホッとする前に、大学での四年間をいかに有効に使うかによって、人生の第一歩が実質的に決定されると思う。人生の宝となる良き友、一つの物事に熱中出来る精神力、社会に出て応用力を発揮する為の基礎となる学問、この三つを四年間に学んだ者ならば社会へ巣立つに当り何の不安もなく、ファイトを持って人生の波を乗り越えられるだろう。以上は私の四年間を通した反省である。

就職について



機械四年生
原　幸延

数年来、不況風が吹きまくっているとのこと、今まで学生生活を安気に送っていた私にとっては、ことさら他人事の様に思っておりました。

しかし、卒業・就職が目前にせまってきたときには社会の不景気、希望する就職先の求人が全くないことに驚かされました。と同時に学生生活がいかに住みよい温室であり、自分の社会に対する関心がうすかったか、つくづく反省させられた次第です。

最初に描いていた大企業への就職の希望も、現実のもとでは中小企業への就職へと大きくかわってしまいました。しかし現実はともあれ、仕事に対する熱意、仕事を通して得られる幸福な生活への希望は大きく、いつまでも忘れないつもりでおります。

所感

経営四年生
井上　裕子

私の家は、木材関係の会社を営んでおります。長女である私がこの会社の後継者となるわけで、友人達は、就職試験がなくて楽だとか、心配がなくていいとか、色色と感想を述べている。しかし、私にしてみれば、これからが辛いわけで、どちらが良いとか悪いとか言えない。私は、何故か自分の出来る事を精一杯してみたい方だから、他人に雇われることが、性格的に合わないのである。私は、取引とか、いかにして儲けるかという商売が好きで、いわゆる金儲けの悪知恵というのでしょうかその様なことが自分に適していると思います。四年間、家を離れて一人で下宿生活をして、つくづく自分の考え方が甘いと感じたことは数えきれないほどあります。その都度、自分なりに自分の主張、他人に対する考え方、接し方を覚えました。親元を離れ苦労したお陰で、人間的に成長したと思います。勉学だけが人生ではない。人間関係も重要であり、又、強い精神力を持つことも重要である。これは、大学に入ってから感じたことである。

将来色々な問題に出合うことと思いますが、今までの経験を基に、自分が納得出来る仕事、行動をして行きたいと思っています。

自動車整備に思うこと

大阪府自動車整備技術講習所
第九分教場長　坂本　勇

自動車は、一定の体系のもとに諸要素を組合せて、特定の機能を発揮させる構造体であるともいえる。

したがって、整備に限ってみれば、自動車を調和した形で体系的にとらえる綜合観と、製作者および利用者と同じ緊張感で対応する心が何よりも大切である。

運輸省の実態調査では、整備に対する信頼度は、平均60%台であり、更にクレーム（再整備）についても、再整備件数0%の工場は、専業で36・4%、デーラーで21・8%と低い。

整備されたものが、現段階では、個人の能力差に負うところが大きいのは、保守的内容が「技」や「方法」的な部分が多くて未体系の領域にあること、整備にかかわる者が、現象の背景まで読みとり、弾力的に広い認識で対応する姿勢に欠け、受信機的感覚で部分的に、あるいは、特定の視座で処理していることが考えられる。又、自動車は一つの自然界とよぶことも可能であり、利用域は広く発生する現象も未体系の領域にあるものを含む場合は多い。この条件の下で、常に車に話しかけ、個性を知ることは、整備における内容で、未体系の部分を自らの力で補うことでもある。

この創造的感性こそ、修理するという次元より育てるという意識転換に先ず求められるものであり、整備本来の姿に欠かせないものでもある。この全局的対応の方法は、技術全般について共通のものであり、整備において特定のものではない。二月十四日より三月十日まで、自動車二級整備に関する講習会を実施中であるが、第九分教場においては、今後、これらの面における方途も常に求めてゆくつもりである。

学生団体に対する助成規則は昭和四十八年に制定されております。学生助成に対する趣旨は、第一条に、「この規則は大阪産業大学の体育並に文化の発展に多大の貢献をなし、他の学生の範となる団体に対して助成することを目的とする。」と定められております。この目的にそって、毎年度各クラブ成績報告をもとに、審査をおこない別記のように助成してきました。今回、四十八年から今年までのをまとめましたので報告します。

学生助成報告

48年2月7日
野球部　100,000円

48年2月7日
野球部　100,000円
少林寺拳法部　100,000円
スキー部　100,000円
躰道部　100,000円

49年7月10日
野球部　200,000円
少林寺拳法部　200,000円
スキー部　200,000円
躰道部　200,000円

アメリカン・フットボール部　100,000円

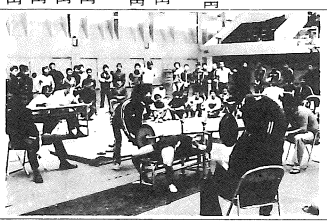
50年9月26日
ラグビー部　150,000円
スキー部　150,000円
ボデービル部　150,000円

51年3月12日
釣魚研究会　150,000円

51年10月8日
自動車部　150,000円

51年10月13日
2部クラブハウス完成助成　100,000円

（2部クラブハウス完成を記念して括助成する）



II部で学んで

II部機械四年生
大前　年永

この四年間というものを振り返ると、仕事を終え暗く寒い道を通った冬の日、レポート、設計製図のため徹夜をし眠い目を擦りながら会社に出た日、大学祭その他行事の準備のためみんなで徹夜をしながら頑張った日、苦しさを乗り越えて成し遂げた時のあの感激は「やったぞ！」の一言に尽きるものでした。今はその苦しみが良き思い出として残っています。そしてここに卒業できることは、良き先輩、良き友達、また何よりも良き先生方に指導してもらったからだと思います。ただ残念なことは、この四年間で多くの学友が学校を去って行った事です。働きながら学ぶという状況の中で得たこの経験を今後の生活の上で充分に生かしたいと思います。

職場訪問記

三木プーリ㈱

卒業してはや二年がすぎようとしている。最近ようやく、よちよちながら一人立ちできるようになったという彼。学生時代にもっていた幼さはもうみじんもなく、営業マンの持つ独特の柔軟さと精悍さを感じる。社会のきびしさがわかったのか、大人になったのか、「自分の思うとおりには、うまくゆかないものですね」と一言だけ愚痴が出た。一般産業機械用の高性能な変速機の販売が彼の仕事である。私にも熱心に性能を説き、新機種の説明をし、本紙でもPRせよという。熱心さに驚いた。

同社には、大阪産業大学卒業生は彼一人だけ、しかし、仕事を終えたあとは、学生時代卒業研究室にたむろし、松本先生に色々お世話になったという同輩達とよく飲みに行くらしい。

「お金もだいぶたまっているようだし、彼女は？、結婚は？」との質問に、照れ笑いしながら「ぜんぜん。」しかし、どうもくさい。

50年・機械卒
中上雅晴君
（田中）

ハツコー工業㈱

寒さ厳しき折、大東市諸福に所在する「ハッコー工業株式会社」に就職されている谷口芳隆君を会社に訪問しました。卒業してからもう三年をすぎようとしていますが、彼とは大学生活四年間、楽しみも苦しみも互にわかち合い、卒業後も度々会い、結婚されてからも色々とお世話になっています。この頃は一段と精悍な顔つきになり、責任の重さがこちらにも伝わってくるようです。会社の社長さんがお父さんである立場上の責任の重さや苦しみなどもありますが、〝末は社長さん〟とこちらは簡単にいいますがやはり本人にしてはつらいことも色々とあると思いますが、この不景気の中でも非常に忙がしい仕事場の感じであり、彼も非常に活躍されていることがよくわかります。

彼は奥さんに非常にやさしくいつも当てられっぱなしのあまい仲であります。

これからの目標としては一日も早く、二世誕生の吉報を期待するのは僕だけでなく、友人達も同じだと思います。まあ、忙しい中をおじゃましましたが、健康には十分気をつけて、これからも会社の発展の為一層の御活躍を期待し、ならびに家庭も円満にやって下さるよう願います。これからも学校の方にも近況報告などもしていただけるようお願いいたします。

50年・II部機械卒
谷口芳隆君
（太　田）

編集後記

ある日、読売新聞の朝刊のデスクメモに次のような記事を見た。文章は覚えてないが、内容は将棋の名人戦の記事のことで「むかしの記事連中には名人クラスが多く、最近はほとんどの人が素人である。にもかかわらず、むかしよりも面白い記事が書ける。かえって何も知らない方がよいものができるようだ」だいたいこのようだったと思う。

ちょうどその頃、本紙の編集が開始された。その記事に心を強くして、職場訪問等の記事を書いてみたものの、我々凡々人にはさほどあらず、だだ〳〵記事を書くことや、編集のむづかしさがわかっただけである。

悲しいかな、マスプロ化してゆく大学の一般的な傾向か……。そんな大学にはしたくない。

（T）

機関誌発行部
編集委員メンバー
○真田卓克（12期）
馬込正勝（産2期）
田中武雄（産3期）
金丸勝春（産4期）
大久保修（産5期）
太田充紀（産7期）
西　博行（産8期）
上垣淮三（産8期）

アメリカン・フットボールのあゆみ

アメリカンフットボール部O・B
47年・土木卒
河合　修

現在、大阪産業大学アメリカンフットボール部は、部長に小山日出男氏を迎え入れ、コーチ陣、四名、部員二十数名によって健在である。

わがアメリカンフットボール部は、青春を謳歌し、自分自身を見い出し、さらに、試合にその成果を懸ける為、毎日、毎日汗を流し涙を流し、辛い練習を、繰り返している。

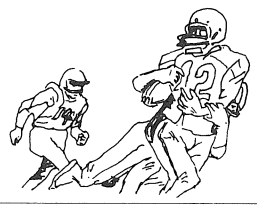
考えてみれば、昭和四十三年の秋のことである。このアメリカンフットボール部を創立しようと、十三名の勇士が集まり、同志会としてクラブを結成する事となり、関西アメリカンフットボール協会から、昭和四十四年より準加盟校として試合をする事となった。

準加盟時代においては、同志社大学O・Bの方を監督に迎え入れ、毎日毎日、夜遅くまで練習に励んだものであったが、試合の結果は練習の甲斐もなく全敗であった為、皆でグランドで涙を流したのが今でも深く記憶に残っている。翌年には、部員も増え、前年の屈辱を晴らす為、部員一同が一丸となって試合に望んだ為か、三勝二敗と、まずまずの成績にて幕を閉じたのである。

アメリカンフットボールは、アメリカの国技としてアメリカで盛んであるが、日本ではつい最近になってマスコミ等によって、小学生でも知っているスポーツとなっている。我々が創立当時では、殆どの人々が知らなかった時代であった。

そんな中で、この十三名の部員でアメリカンフットボールを研究し、又洋書などを勉強しながら練習方法をいろいろ変え、努力し、何もかもが第一歩からのあゆみであった。現在ではアメリカンフットボールを、部員全員がよく知り、研究しているので、他校との力の差は殆どなくなって来たように思われる。しかし試合において、もう少しのガンバリがない為、全勝する事が出来ないのが現状である。

これは我が校、我がアメリカンフットボール部の伝統が浅い為に大きな影響を与えているものと思う。そのためにも、我々の大学、O・B、現役がこの現実をよく把握し、もっともっと努力し、研究し、又伝統を築き上げていかなければならないと強く考えているものである。



訃報

▼学園理事・多田羅甚太郎
昭和五十一年十二月五日死去されました。
告別式は十二月六日自宅において、しめやかにとりおこなわれました。

▼経営学部教授、前谷清
二月十二日死去されました。先生は昭和四十年四月一日、現大学の前身である大阪交通大学助教授に就任されてより、昭和四十三年十月一日大阪産業大学教授、また昭和四十五年学園の理事として、大学の発展に多大の貢献をされました。
告別式は二月二十日浄念寺において、しめやかにとりおこなわれました。

昭和五十二年一月十四日死去されました。
告別式は一月二十二日千里会館において、しめやかにとりおこなわれました。

校友会活動報告

○51年11月2日
総会
場所：新阪急ホテル
議題(1)会則改正について
(2)その他
○51年11月12日　学内代議員会
○51年11月24日　学内代議員会
○51年12月11日
会館建設委員会
場所　大阪リバーサイドホテル
○51年12月11日
代議員会
場所　大阪リバーサイドホテル
議題(1)総会の反省について
(2)会則改正に伴う役員の選出に
(3)その他
○51年12月20日　学内代議員会
○52年1月14日　学内代議員会
○52年1月21日　学内幹事会
○52年1月22日
幹事会
場所　大阪リバーサイドホテル
議題(1)会長・副会長選出
(2)常任幹事、幹事、代議員補充に
(3)その他
○52年2月2日　学内幹事会
○52年2月7日　学内代議員会
○52年2月23日　学内幹事会
○52年2月24日　学内代議員会

就職状況

昭和52年２月末現在の就職状況，（　）内の数字は51年３月８日現在のもの。

	(A) 卒業予定者	(B) 就職希望者	(C) 就職希望なし	進学	(D) 就職内定者	公務員	自家営業	内定率 D/A %	内定率 D/B %
経営	487 (398)	408 (319)	86 (79)	3 (5)	321 (253)	7 (15)	11 (12)	66 (64)	79 (79)
機械	160 (163)	160 (150)	0 (13)	0 (0)	119 (116)	3 (4)	8 (2)	74 (71)	74 (77)
交機	155 (176)	142 (152)	13 (24)	2 (2)	127 (134)	2 (3)	8 (2)	82 (76)	89 (88)
土木	161 (183)	148 (180)	17 (3)	0 (0)	121 (158)	8 (10)	7 (3)	75 (86)	82 (87)
2部	102 (112)	35 (76)	67 (36)	0 (0)	* 17 (60)	3 (3)	0 (1)	16 (54)	49 (79)
短大	284 (216)	252 (185)	45 (31)	2 (3)	231 (180)	(0 (0)	19 (14)	81 (83)	92 (97)
計	1349 (1248)	1145 (1062)	204 (186)	7 (10)	936 (901)	23 (35)	53 (34)	69 (72)	82 (84)

＊この数の他に現職継続14名。

51年度の就職状況について、昨年暮れまでの内定状況は低調であったが、年始から経済情勢が好転したのか１月～２月にかけて内定率は増し、卒業時には恐らく50年度とほぼ同率になると思われる。